

明治十二年夏

元村會議日誌

那賀郡元村

0092

安楽川村文書 I

文書
番号

013

28m 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22

和歌山縣下郡買郡元村會議日誌

明治十二年八月十七日

該日ハ實ニ郡買郡元村會議ノ開場日ニシテ各議員皆
出席ス議員ハ當村民委員ニシテ総員十三名ナリ番
外ハ該村戸長津田作之丞書記ハ加和小子五郎津田正太
郎ナリ

傍聴人モ亦用意ノ席ニ就ク午後二時ヲ以テ開會式ヲ行ハ
ル戸長津田作之丞ハ議長ノ席ニ登リテ先ノ祝詞ヲ朗
讀セラル

夫レ國家ヲ富シ海外ニ威望ヲ輝スハ勉強ト民推ニアリ然

り而シテ其基礎タル學校及會議ニ依ラサルハサレ故ニ
政府風ニ諂技及シ諸會議場ヲ開設シ各々其利ヲ
尽サレメ民権興起ノ面目ヲ得テ既ニ明治璋璽ノ異
変ニ逢會シ更ニ縣町村ノ會議ヲ始創セラル則本年
五月縣會議ヲ仰始シ尋ラ七月村會議ヲ開設セラレ
實ニ國家富強ノ始基ナリ今日屈指ノ英米諸國ト同
一般タル正ニ近キニアルヘシ豈ニ謹視セサルヘカラス
望ム諸君其職ヲ尽サシテ鄙陋ノ幸ニ此昌政ニ逢ヒ
淺意短才ヲ顧ニス聊カ商場ニ祝詞ヲ吐露ノ他日
ノ榮美ヲ俟ツ

明治十三年八月十七日

戸長 津田 作之丞

尋テ議員總代トシテ議員中平野葛次郎 答詞ヲ讀ム
詞ニホリ

本日茲ニ村會議開設ノ創始ニ際シ懇厚足下ノ明示ヲ辱
フハ拙生等公衆ノ選擇トナリ此場ニ列スルノ榮ヲ負フ
其責任重大ナリト茲將ニ誓フ儼カラズシテ衆庶ニ代
リ足下ノ明諭ニ應ヘントス因テ鄙言ヲ吐露シ謹テ祝
詞ニ答フ

明治十三年八月十七日

毛村議員總代 平野葛次

開場式終リ行山善四郎衆員ニ代リテ正副議長公衆マデ後

議長ヲ番外津田作之丞ニ乞フ番外ヲ兼アリテ議
長ノ席ニ付解^解議^議長ハ正副議長ヲ撰^撰奉スル前
昔^昔書記ニ用紙ヲ分配セシム行山善四郎ハ正議長ニ平野
葛次ハ副議長ニ當選セリ依テ西貢ニ承諾セラルヤ否ヲ
後議長ヨリ問ハルニ行山善四郎小生ハ老歲且ツ天性不才
アレバ連モ其職ニ堪ヘカタシト又平野葛次余輩モ賤子鈍才加
フルニ當時役場筆生奉職中ニハ戸長事務多端ノ際番
外ノ代理ヲモ務ムヘキ苦テハ不都合アリテ依テ改票セラレ
ト陳ス

衆員ハ一人辞スレハ他モ之ニ倣フハ人情ナシハ強テモ西君ノ兼

諾アリニテ望ムト噴々タリ

後議長ハ種々其要旨ニ就テ辨解セ又行山平野西貢ハ各
員ノ請ヲ承諾シテ其選^選挙ニ応スルノ旨ヲ述フ

又假議長ハ中^中演^演説アリ終ニ番外ノ席ニ靠ス

議長(行山善四郎)ハ徐々ニ議長ノ席ニ着キ衆議員ニ對シ

抑^抑モ今會議ヲ開クハ将来ノ利害得失ヲ推究シ他日所村

自治ノ牽掣タルヲ以テ議員諸君ハ宜シク目下談地

ノ情態ヲ推究シ互ニ相競争シテ討論辯議ノ美

花ヲ咲シムルヲ得ルニ至ラシテ企望スル陳本

議長ハ首^首負^負ノ席次ヲ定シガクニ抽籤ヲ命ス其席順ハ

九ノ如シ
 第一番 山喜四郎
 第二番 永長伊助
 第三番 山清五郎
 第四番 平野富次
 第五番 津田雄三郎
 第六番 林伊右衛門
 第七番 田中喜五郎
 第八番 若田市兵衛
 第九番 炎崎弥之助
 第十番 山嘉兵衛
 第十一番 柳本重次郎
 第十二番 田中慎一郎
 第十三番 乾直輔
 議長又各員ニ向テ 幹事ニ名ヲ選テ可キ者ヲ述べ書記ニ投票・
 用紙ヲ配セルル 暫時ニテ同投ニ入ルル如シ
 五票 第五番 津田雄三郎

四票 第五番 柳本重次郎
 二票 第二番 永長伊助
 二票 第六番 林伊右衛門
 議長ハ五番十一番多数ナル者ヲ皆テ其職ヲ負擔之ルノ度ト爲ス
 而議員義諾ス 暫時ニテ 各員立禮散場ス
 如時ニ分撃柝開場
 議長ハ書記ニ 村會規則ヲ朗読セシムル如シ
 村會議事規則
 第一條
 凡會議ハ午後二時ニ開場シ至七時ニ散會ス時宜ニ知リ議長

ノ意見ヲ以テ伸縮スルモアル可シ

第二條

議員ノ順席ハ豫メ抽籤ヲ以テ之ヲ定メ毎會其席ニ着ク可シ
附議員中止ラ得サル事政示ハ病疾アツテ退場セント欲
スルハ議長ノ許可ヲ得テ退場スヘシ

第三條

凡議案ノ総体及各條ヲ議セント欲スルハ書記ヲシテ先
朗読セシム

第四條

會議中発言セント欲スルモノハ起立シテ自己ノ番號ヲ呼ビ

議長又タ該番號ヲ呼フ若シ二人以上同時ニ起スルハ
議長其一人ノ番號ヲ呼ビ発言セシム可シ

第五條

議員中討論開答ト雖モ必ス議長ニ向テ討論スヘシ其互相志
答スルヲ許サス

但甲議員意見ヲ允スルモ其発言ニ附キ反對者アリテ甲乙互
ニ時ノ勝ヲ擧取セシト欲シ他人ノ論肯テ推倒シ自己論
意ノ可否ヲ顧慮セス僻説ヲ強辯スルヲ許サス

第六條

一議員ヲテザル間ハ他ノ事件ヲ先議スヘカラス

第七條

會議ノ発言ニ賛成有キハ議長ノ意見ヲ以テ原案ノ可否ヲ
衆議員ニ問フ得ル

第八條

議長発言ニシテ欲スルハ其事ヲ述ヘ副議長ニ席ヲ譲リ以
テ議員ノ席ニ着キ発言スルベシ

第十條

議業總休ニ付質問セント欲スルハ議員議長ニ其事ヲ
述ヘ議長番外議員ニ告テ番外其質問ニ應答説明スヘシ
村會議事傍聴人心得

第十一條

會議ヲ傍聴スルモノハ静粛ヲ生トシ互ニ語ヲ接スルヲ訂サ
ス

第十二條

傍聴人私語雜言シテ議事ノ妨ヲナスモノト認めルハ議長
書記ニ命シテ之ヲ退去セシムベシ

第十三條

終テ第一次會ヲ開キ番外議員ヲ答辯人トアレテ各員ノ質
問ヲ辨明セシム

各員是レニ立テ質問アリ又番外答辯明亮

議長又各員ニ向ヒ質問既ニ了レハ明日午後第二時ヨリ第
二次會ヲ開クヘシトセリケ 散會ヲ會ス時ニ七時ナカリ

不參議員 林 伊右衛門

傍聽人 十三名

尋テ傍聽人林謙之輔左ノ祝文ヲ詠ム

爰ニ明治十二年八月十七日郡賀郡元村々會完設各
議員登場アリテ完場ノ式ヲ挙行シ殊ニ戸長足
下ハ完會ノ祝又ヲ朗詠セラル 隨テ議員諸君モ之
ニ報ユルノ答詞ヲ誦ス誠ニ古今未嘗有ノ義舉ニ
シテ衆庶俱ニ買セスニハアルヘカラス因之余輩
モ傍聽ノ末席ニ列リ聊カ哀情ヲ各議員ニ陳
呈セン 抑モ區會町村會ノ施行セラル、京由タル
ヤ維新尔来 朝廷ニ於テ文部卿ヲシテ厚ク興
學ノ旨ニ注同サレ同今又運猶完ケ人智ノ完提ト民權之擴

志をトテ其民推タルヲ奏クモ 明治皇帝陛下ノ御計アリ
テ人民各自主ノ有権者トシ故ナリ随テ各府縣長官客年
四月地方官會議ヲ東京ニニ開キ其議場ニ於テ各員
及覆審義ノ未終ニ輿論ノ帰スルヲヨツテナルリ然リ而シテ最
ニ府縣會ノ設アリ今又區會町村會ニ至ルハ實ニ好機會ナラ
スヤ因テ是觀之彼實明政府ノ能ク政付ニ注意アルヲ以テ甘テハ
當村會ニ於ルモ泥ク公衆ノ議ヲ採リ事必ラ又輿論ノ帰着スルヲ
ニ決スルハ論ヲ俟サル所ナリ然リト雖モ未タ利アリテ民不悦其
得喪ヲ不辨只因慣ニ抱泥スル情態不止是也凡潮ノ然
ラシムル所ナレモ寔ニ患ニ不耐ナリト云々各員ニ於テハ草ニ

朝市ノ此等ノ民ノ幸福寧寧トテ非議ニ議員諸君ハ只
衆議ノ重ニ任(付内)休寧ヲ負ヒ能ク其公推ヲ守リ忌憚ナク
討論審議艱苦アリシヲ休メ

尋テ我輩村民ニ代リ各議員諸君へ謝言ヲ吐露ス各員御
手承アラハ幸甚

惟ルニ本町ヲ以テ村會ヲ當場ニ完ク各員我カ村民ノ推撰
ヲ以テ代議士タリ依テ風夜之ニ役事シ罪知以テ其ニ衆庶
ノ益ヲ議ル實ニ各員ノ偉德誰カ感謝セザンヤ然リ而シテ
吾輩賤民各君ノ堂々ヲ視各君ノ侃々ヲ聞クト此時
ニ當テヤ吾輩深ク畏ル各君勞神ヲ積テ疲コナシ暑

炎、苦レテ身ニ不利アリシヲ、若シ然ラハ何ヲ日衆慮シ、
適レ何ヲ以テカ負擔ノ責ニ任セ、依テ新ル各君冬熱ノ骨
ヲ厭ヒ精神ヲ安シ、各位身心自愛アツテ、委托ノ責ニ免
全シ、情願ナク、秋單巡ニ各君カ其帶ヲ解セ、昔單同
胞ノ為ニ其義勢ヲ尽スト、友誼ノ厚キトニ感佩シ、若シ其
強健ニテ、尔未講々ノ論議ヲ、飽マテ水榭ノ上、極々其
論シ不日成功アリト。之ヲ以テ、微衷ニ諮リ、議員諸
君ニ謝ス、恐惶頓首、敬白

那賀郡元村 林 謙之輔

八月十八日

傍聽人

午後第二時完議 各員歸座

議長 衆員ニ向テ曰ク、昨日第一次會ニ示シタル議事規則
ヲ順次ニ読ミ上ケ、逐條可否ヲ決セシ

書記 議案第一條ヲ讀ム

ガ十二号(田中慎一郎)各員農家ナレハ、薄暮ニカス田畑ノ
見回り、且ツ水車ニテ畑へ揚水等ノ家勞アレハ、完場ニ時ヲ一
時トシ、散場セ、時ヲ六時ト改メヘシ

第十一号(柳本重次郎)ハ十二号ニ同意ヲ表ス

議長ハ他ニ動議ナキニ付、則ケ十二号ニ同意ノ者ヲ呼ブ紙起

立図テ時而ウ改ムルニ決ス

書記第ニ条ヨリ逐条朗読ス

本村并、貳条ヨリ第ニ条迄逐條審議ノ末原案ニ決ス
書記傍聴人心得ヲ詔ム

衆議員認可スルヲ以テ原案ニ決ス

議長既ニ該規則議決セラル以テ是ヨリ村會議按總体ヲ議ス
ベシ

書記説明各及終体議案ヲ讀ムル如シ

那賀郡元村々會議案總体説明書

明治十二年度協議費ヲ以テ支辨ス可キ経費ヲ豫算スル

ニ其額四百四拾七圓二拾三錢余ヲ要ス則明治十一年度
實費額ヲ算定スルト虽モ其第一條ニ條地價ノ割
ノ如キハ農ニ御達ノ額ヲ以テ同下賦課スヘキ金負算出シ
丈レ之レ合算スルモノナリ依之歳々其費用之細同ニ至ラ
ハ又自ラ増減之差異ナキ能ハス是則總体ノ要旨トス
第三條以下ノ経費ニ就テ見ルベシ逐條説明セシトスレ其
之ヲ要セザルモノニ限り省略ス

明治十二年八月十六日

村會議按總体

第一條 明治十二年度地方税ノ各地價割ハ郡役場ヨリ

御達ノ課額当村及入作共各地主ヨリ徴收スル金額
一金貳百六拾圓七拾五錢一重

此地價八万五千七百七十三圓四十五錢

但し地價百圓ニ付金三丁錢四重割当縣廳ハ收納期限
ハ該年度四圓ニ分ケ毎會四分ノ一徴收ス元ノ如シ

第一期 七月一日ヨリ 至八月三十日 第二期 九月一日ヨリ 至十月三十一日

第三期 十一月一日ヨリ 至十二月三十一日 第四期 翌年一月一日ヨリ 至二月三十一日

第二条 同地方税ノ办戸收割ハ^郡役所ヨリ御達ノ金額
一金五拾壹圓〇四錢貳重

此戸數百四拾一戸 但し明治十二年上中下年戸數係リ

總計本村ハ各戸等級及賦課ノ利率ヲ議定スル
ルヲ要ス然レモ寡婦孤兒廢疾ニシテ他ニ救助スヘ
キ親族ナキ者ハ格別ノ審議ニ附スルニ要ス

第三条 河溝堤坊道路橋梁用急水路井堰溜池修
繕費等縣會議決甲第二号三号ノ八分通り地方
税ヲ以支辨シ殘餘ニ分通り所^レ得々金額豫算

一金九圓〇八重

但目下修繕ヲ要スル箇処有之付其ケ知ヲ掲ケスト
雖トモ該修繕ニ係ル費用アル時ハ田價ニヨリ有田
者限リ支辨ス

第四條 公立小學校費豫算
一金七拾三兩七拾六錢七

内 四十八兩 散員給料 一ヶ年分

拾六兩 小便給 石口 斷

九兩七十六錢八厘 按内諸費計

計如高

内 拾四兩七拾五錢 生徒受業料

拾八兩 賃水金 元西世間ノ利子
但一ヶ年一分五厘

二十八兩 明治十二年度貸麦利子
麦七石代但一ヶ年四分五厘

税金拾三兩。一多七厘 人費賦課

但レ該校兵部部落限リ戸数七分人口三分ニ分シ每一
等ヨリ五等ニ分テ賦課ス此戸数四十一戸
人員六百八十八人

但レ戸数等級自ハ戸数割不級ニ準ス

第五條 村社寺修繕費及祭典具地一村限リ支

辦スヘキ經費額豫算

一金二拾四兩六十錢系

内 拾圓 村惣代給料

四兩八拾錢 歩行給料

雜費額

外ニ旧村會議如割及キ村割掛リ貴有之

但シ該村戸数七千人ニ分チ前百口斷賦課

第六條

戸長役場經費豫算儀具實費ニ至リテハ自

ラ増減ノ差異ナキ不能就中本年ハ郡區改正ノ

長役場開設創始ノ事業ニ係ルヲ以テ該費増減ノ

釀成無ク得スト至モ客年ノ貴額照合スル難シ因

テ本年一月ヨリ四月マデ旧村會議費額改正後六

月三十四ニ至ル役場經費ヲ百筆シ是ヲ倍シテ明治十

二年ノ度費額ヲ算定スルニ該年四月ニ地方税ノ内

以テ支辨ノ額ヲ除シ殘余協議費燦筆

一金拾六圓拾五錢

但該經費ノ義ハ其組合部落各村ニ入作共地價七

分通り組合村落戸数ニ分通り割當ヲ以賦課ス

此地價總計拾七万四千三百三十四圓四十一錢五厘

戸數貳百九十五戸

第七條

協議費取立期限ハ該年度ニ回シ定メ金額

二分ノ一宛ヲ徴收スルノ如シ

當年八月

翌年三月

第八條

村中共有物貸付及保存方法之定

右

一次會了テ姑ク散會

四時二十分集會

村會議案總体第一條

第四號平野葛次ハ第一條縣下一般ナレハ議スルモ
依テ第三條地方税眼義貴徴收期ヲ議スベシト云フ
議長魚瑛フ可トスル者ヲ呼ブ應スル者十一名依テ
魚瑛通過ニ決ス

第二條

議長議負ニ向ヒ曰ク地方税ノ内戸数割ハ毎戸ニ
課ス

ルカ故ニテ容易ニ受スル日ハ民心ノ苦情マシテテ忍ル依テ諸
負深慮熟考シテ其可否ヲ討論シ苟モ粗忽ナカニ
望ム

第四番平野葛次戸数割ハナルモ徴收期ノ度依テ金額
部ノ地價ニ三部ヲ戸数ニ配當スベシ付テ台負ヨリ委員ヲ選考シ
テ教等級附テ地ニ可シ

第五番津田雄三郎戸数割ハ最も精實ニ取調ヘ度然レモ委員ヲ
選ハハ各負脇カニテ等級ヲ調整ス可シ

第十三番乾西輔ノ曰ク委員等シク等級ヲ調フルハ繁
雜ニ且リ却テ事務勞嫩ハサレハテ号ノ如ク委員ヲ選テ可シ

第三番(山崎正三)より各員等級調定可し何トナレハ等級調整後但目若し小家ニ苦情アルハ改メハ等級部分ハ関係セズ誰々等ハ等級定メタル以テ公公平アリト云ヒキニ依テ委員ヲ選定スルヲ不可ナリトス

其他ニ悉ク起テ議論アレハ皆大同小異ナルヲ以テ議長ハ第四号ノ委員ヲ選ビ同意ノ者ヲ呼ブ應允ル者四名

議長又ハ五番ノ説ニ賛ム選定可トスル者ヲ呼ビ起立七名議長曰ク第五号ノ説多敷ニ決メ依テ議長是ヨリ等級調定可ナル可ト稟告ス

第九番(森井正三)ハ教等級ハ十等ニ分ケ五等以下ヲ等外トス

ルヲ述ブ

第五号(津田雄三郎)ハ等級ハ十等ニ配当シ一等ヨリ十等ニ至ル迄上下ヲ附ス可シ

第十一号(田中慎一郎)ハ戸教等級ハ十等ニ分ケ他ニ上下ヲ附スルニ及バス

第七番(田中忠五郎)ハ第五番ト同意ヲ表シ上下ヲ附スルヲ云フ

第四番(平野葛次)ハ毎級ニ上下ヲ附スルハ精算上ニ不都合モアレバ八等以下ヲ上下ニ分ツヲ云フ

第三番(永長伊助)ハ仮令徴収ノ際手教ナリト公平ニ分ラハユウ、如毎等ニ上下ヲ附シテ可ナリ

第十二番ノ白ク悉焉等級ニ上下ヲ附スルハ何ヲ以テ同達トスルヤ
第五番津田雄三郎(白ク衆目ニテ毎等ニ上下ヲ附スルヲ目的トス
議長ハ既ニ七時三十分ナレハ更ニ明日ヲ以テ決議ス可キ上日
ナラゲテ開會セシメタリ

八月十九日

午後一時四十分開議

此會ハ昨日ヨリ引續キタル第五番ニ余戸教割等額付ケ
審議ニ傍聴ニ午後六時郡買郡長菅沼政経名同郡一
書記田端兵之助君及び談村戸長津田作之丞君ニ
アリキ

議長ハ昨日ノ純キ戸教等級確定議ニ掛ルベシト告グ
第四号(平野葛城)ハ昨日第五号議ノ如ク一ヨリ十二至ルマデ
毎等ニ上下ヲ分テハ等外共ニ二十一分ルルヲ期ノ如キ多キ戸
教等級縣内ニナルベシ依テ八等以下ニ上下ヲ付スルヲ可キ
第五号第五号交ルル起ラ上下ニ分ツテ決メ
第六号(若田市兵五)ハ上下ニ分ツテ不可トシ第四号ヲ賛成ス
議長曰ク我前紛糾タレト票ハルハ等級毎ニ上下ヲ附ナルト否
ラストノ二点ナレハ之ヨリ可否ヲ決セシ
第五号五号ニ同意ヲ表スル者ヲ呼フ起立七名
又第四号八号ニ同意スル者ヲ呼フ起立五名

義長曰ク悉ク等級ニ上下ヲ属スル説多岐^{誤入ハセリ}
衆我負ハク牧等^ノ級部ハ本會義ニテハ後密ニ議シガタキ
席モアレハ内會ヲ用キ各負三組トアリ帳簿三冊ヲ製シ熟談
ノ本其帳面ニ等級ヲ附シ然シテ后三冊照合シ多岐ヲ以テ毎戸
ノ等級ヲ改定シ更テ修正義案トシ本會ニテ確定致シ度ト陳ス
議長ハ各負ノ請ヲ認可シテ二十分休憩ヲ命ス諸負共禮
ヲ行ヒ散場ス

三時十分内會議ヲ始ム

各負着座三組トアリ戸数等級下調べニ係ル

四時四十分開議

義長曰ク先刻ヨリ修正セシ戸数等級案朗読セシム依テ

逐等審議確定スアリタシ

修正戸数等級第一等 原案ニ次ス

第二等

第四番(田中畑)郎 二等四名ニ上下ノ分チアレシ等シケレハ
上下ヲ別除シテ可ナリ

第三番(山人清及衛) 原案ニテ可ナリ

義長ハ原案ニ同意ヲ表セシムルニ十一名起立依テ原案ニ決ス

第三等 上下

第二号(永長伊耶) 元山嘉共二三等トニ不適ナレバ

降ニテ可ナリ

第一号(柳本重次郎)ハ第二号ニ同意ヲ表ス

第十三号(田中慎一郎)ハ三号上適當ナリ若シ之ヲ下ニ落スハ他ニ
差支ヘ生ズベシ

第九号(森崎江之助)原按同意ヲ云フ

其他ニ原案ヲ賛成スルモノ多クハ本按ニ決ス

第四号 上下

第十三号ハ四号上林主之進ハ他ニ比較スハ四号ノ下ニ歸入ス可シ
議長十三号動義ニ同意ヲ呼応ス者ナシ依テ本案ニ決

第五号 上下

原按ニ決ス

第六号 上下

第十二号(田中慎一郎)古田ヨリハ獨冉ノ老婦ニシテ他ニ救助スベキ
者ナシハ七号ニ降サス可シ

第七号(田中東元)駁ニテ同ク古田ヨリハ成程寡婦ナレバ

地價モ知持セリ同級ナル林久太郎モ亦物サカ地價上ニモ幼孤ニ

シラ亡父ノ負債具ウ先祖父母アリ是等ニ較フルハ有ハ原

按ニテ可ナリ

第六号(林伊右衛門)第七号建議ヲ賛成ス

第九号(尾山嘉兵衛)ハ永長伊助モ亦六号上ハ重キ旨ヲ述

第八号(岩田市兵衛)ハ何モ原按通り多可ナリト云フ

第三号(平長伊郎)ハ六等下ナル清左衛門ハ上ニ進ムベシト云フ
第十三号(乾直輔)ハ八等清左衛門ノ等級ハ適当ナリト云フ
第四号(平野葛次)ハ各員紛論ヲモテ所賛成者ナレバ議長
早ク決ヲトラシイラシム

第九号及第十号ハ建議ヲ主張ス

議長ハ茲ニ起立シ表ヒタルニ第十三号ニ三名及第九号ニ三名第十号
ニ一名石何レモ小數ナレバ原案ニ決ス

第七号 上下 原案ニ決ス

第八号 上下

第九号(森寄弥三郎)ハ八等上ナル柳本平造頭本条右衛門、両名ハ

第七号 上下ニ加ヘベシ

第八号(岩田市兵卫)ハ同意ノ旨ヲ述ブ

第十号(柳本重次郎)ハ該兩名ノ恒産ニテハ第八号上ニモ重シ
儀ヲ原案ニテ可ナリ

議長衆議ノ歸タル如キヲ以テ原案同意ヲ呼ブ可トスルモ
十名依テ急辨ニ決ス

第九号 上下

動議ナキニヨリ原案ニ決

第十号 上下

第六号(林伊豆門)ハ林リトハ寡婦ニテ母子ノ養育ハ月給ニモナレバ

等外ニ出ス可シ

第十号(河山嘉兵衛)ハ土橋ざんモ林リト同一ニハ等外ニハベシ

第十一号(水長伊助)ハ永長ヨリモモ十等ヲ係シ等外ニハベシ

第十二号(津田雄三郎)ハ河山ヨリ溝口次郎等モ削除シ等外ニハベシ

議長ハ第六号十号ニ号五号建議之如ク丘名十等ヲ除シ等

外ニ出スヲ可トスル旨ヲ呼ブ総起立同テ等外ニ出ス決ム其他ハ原
採ノ修

議長ニ建議アル次第ヲ告テ副議長ト交ル

議長曰ク既ニ戸教等級調提案スレハ其毎級ハ賦課金額ノ
法方ヲ議スベシ

第一番(河山善四郎)ハ毎等級ハ米穀計ト升數ニ定メ置テハ後年

ニ是マデソノ米ノ升數ヲ位ニシテ賦課金額ヲ升同ニ定メ割當ル

ハ聊サカモ差異之レナシト考フ

第七号(田中慎一郎)ハ役令ハ一等ニ付金銀円錢ト兼テ金位ニ定メ

度左ナリハ米位ニテハ他人ヲ承シカタル

第六号(林伊右衛門)ハ十二号ニ同シテ金位ヲ附シタル

第五号(津田雄三郎)ハ第一号建議之如ク米升ヲ附タル方ヲ可ナリト考

議長ハ他ニ動議ナキニ付第一号建議ニ同意ヲ呼ブ志スル者十

名依テ米位ニ決ス

尋テ総小會議ニテ等級ニ米升數ヲ定メ方決ヲ議セシニ

諦端種々ニ決リ決ガレニ付會主各員ニ白ヒ曰ク本日ハ最早昨
間過日ハ季負ヲ豫ビ其事ヲ明日會迄ニ決セハ如何
衆員可トス依テ選ビシニ正副議長書記三名ニ決シ七時三
十分開場シタリヤ

二十日

欠席 二名

不参

傍聴人 八名

午後一時折ラ撃テ會ヲ開リ

議長書記ラシテ戸数等級掛リ米修正案ヲ提シ

議長身ヲ答辯人トナシテ一次會ヲ開リ

第三号(田中慎一郎)脇義賞ハ地價戸数ニ折半ナリヤ

議長曰ク是レハ昨日小會議決ノ通り七部ハ地價ハ三分ハ戸数
ニ除スルナリト尋テ第二會ヲ開リ

第三号ハ昭義賞ハ地價ニ七分ハ戸数ニ三分ハ割付不公平ナリ

如何ニトナレハ戸数等級四等以上ノ分ハ地價モ從テ多ク私有不

ルアレバ戸係リ過度ヲ因テ減收致シ度ト述ベ

第五号(津田雄三郎)私ハ前議ヲ賛成スルモ六等以下ノ戸割當
ヲ減ジ度

第二号(永長伊助)ハ第三号ニ同シ四等以上ノ減額ハ又シテ

第五号ハ議ヲ擴充主張スレモ要負第五十三号四等以上ノ
減少説ト第五号六等以上減額ノ説トヲ分析シテ五等以上ハ
減スルヲ可トス依テ元記ノ如ク決定セリ

等級 賦課方法 戸數

一等	一戸廿	永色斗六升	一
二等上	"	一斗四升	一
二等下	"	一斗二升	三
三等上	"	一斗	二
三等下	"	一斗	三
四等上	"	九升	五

四等下	"	八升	二
五等上	"	七升五合	五
五等下	"	七升	二
六等上	"	六升五合	七
六等下	"	六升	六
七等上	"	五升五合	九
七等下	"	五升	七
八等上	"	四升五合	九
八等下	"	四升	十四
九等上	"	三升三合	十三

凡等ノ下	口東村七合	二十四
十等	口西村一合	二十六
等外	賦金免除	二戸外ニナシ
通計		百四十戸

但し等外ハ毎戸ノ恒産ヨリ見附キ賦金ニルニ決ス
 議長ノ曰ク外村ヨリ該村ハ寄附人七四人アリ是ラニ協議
 費ノ内少ク々々賦課スベキヤ
 第七号第如号ハ役令ニ僅少ナリに課スベシト云フ
 第三号(山ノ清石六)曰ク寄附人ニ賦課スルハ飽マデモ不可ナリ
 何トナレバ其人京籍ナリ協議費割徴將セシ又寄附先ニ

テ聊サカナリに徴收セラルハハ再納ナリ且又迂生思
 惟ニ近衛ヘ寄附ス者ニ限リ寒家ナレハ何ヲ以テ再納ニ堪ヘシヤ
 第五号津田雄三郎ノ曰ク第三号ノ勤義ハ最モナリ然レニ
 維新前ニテ他村ヨリ入居ス者ニハ水役トカ称ヘ聊サカ宛
 徴收セリ今其例ニ倣フテ賦課スベシ
 議長ハ第三号ノ建議ニ同意ヲ呼ブ志スル者四名又京
 井同意ノ者ニ起立ラ余ス七名依テ寄附人ニ賦スルニ決ス
 第五号平野葛次曰ク寄附人ノ課金ハ成大ニ僅少ニ致シ
 度既ニ憐村市場ヨリモソノ夏打合セモアレバナリ
 第七号柳水重次郎ノ曰ク賦課法ハ等外ノ如ク毎戸

家業ニ從ヒ見附ニテ徴收スベシ

議長ハ他ニ動義ナキニ付 第十一番ニ同意ヲ呼ブ然レ
立因テ決ス

議長又曰ク戸籍面一ニシテ親子ニ付トナリ各産業ヲ考
ス者ニ別家ニ服義費ヲ賦課スキヤ否ヤヲ審議スベシ
第十一号乾直輔ノ曰ク譬ヒ戸籍面一ナリト父子分レテ生
活ヲナス者ニハ兩戸共ニ賦スベシ然レ別家ノ課金ハ輕重ニスベシ
第七号田中徳衛門(第十一号ニ同意ヲ表シ賦課法ハ寄
留人ト均賦スベシ
第九号及ヒ廿八号ハ七号ト同意ヲ表ス

議長ハ第十三号議ニ同意ヲ者ニ起立セシムル者ナキ依
テ寄留人ト同一ニ賦課スベシ決ス

書記村會議案第三号ヲ朗読ス

第十四号議員番外代理トシテ其席ニ當リ

第五号津田雄三(而)第三号ハ教株ニシテ先ニ修正シテ審議
スベシト云フ

議長第五号ニ同意ヲ呼ブ衆員咸ナ可ラス因テ修正委員
ヲ選ブニ副議長建議人ニ當選セリ兩員修正ニ係ル各員ハ
暫時休憩ス

五時四十分開議

義長書記ニ修正案ヲ記シハ

修正議案第三條

第一項

一荒川井戸跡外分凌キ方添

第二項

一溜池外分凌キ方添

第三項

一堤防同惡水路外分凌キ方添

第四項

一道路橋梁所分凌キ方添

畢テ第一次會ヲ閉キ尋テ第二次會ヲ開ク

第一項

第五号津田雄三郎ハ井堰井川筋等、諸宮路ハ之レマ

デノ仕来リモアレハ宜ヨリ同論見ノ外ニ分通りハ通係有田留ニ課ス

第六号柳本重次郎ハ第五番ヲ賛成シテ又以下ノ破損ハ其地

構多地主ヲ始メ該地方持田者、凌キトスベシ

第七号(田中慎一郎)ハ前議ニ同意ヲ表ス

議長第五号第七号ニ同意ヲ呼ブ起ツ者十一名依テ第

五号第七号ノ建議ニ決ス

第二項

第二番(永長伊助)ノ白ク溜池処分モ涌川掛リ同様ニ設
 掛リ有田者限リト致シ度ト
 第八番(岩田市兵五)第貳号ニ同意ヲ述ゲ
 議長他ニ登論ナキニ付第ニ号ニ同じキ者ヲ起立セシム
 起立十二名則第ニ号議ニ決入時報鐘七點十ニ分以テ
 會ヲ散ス

八月三十一日

欠席ニ名

不参一名

傍聴人

午後一時暫將開場

第三項

第二号ノ白ク談村中堤防致シ處モアレバ其箇処記シテ議シ
 衆議員可トス依テ議長書記ニ命シ其堤防ノ修テ記セシム

堤防箇處

一字岬見崎堤 一木動谷堤 一白岩溪堤

一北溝ハ口^井側ヨリ北街道橋迄西側堤防

右

第九号^{荒崎}河之助ハ行山降白岩池用水路^{堤防}セケルニ加ヘ可ナリ

第七号^{田中喜五郎}ハ第九号ト同意ナリ

議長他^{勤我}ナキヨリ迄立テ余カ帝起立同ヲ加フルモ

第六号^{林伊右衛門}ハ不動岩堤ニ橋迄西側^ルヤト云フ

議長ノ曰ク不動岩堤ハ上ヨリ^{新橋}本迄ハ東西両側走^ルヨリ下大橋

マデハ西側ダケナリト云フ

第五号^{田中恒一郎}ハ其岩上ハ何クマデト云フ

議長白クハ^{瀧口}マデ^{ナリ}又白岩岩上下何処迄ト云ベシ

第二号^{永長伊助}ハ上ハ四埋^荒地係^ハ瀧口ヨリ下ハ田中恒一郎地構テ
迄ミテ可ナリト云フ

第十二号^{田中恒一郎}ハ下ハ水カノ橋限リニ云可シ

第七号^{田中仙三郎}ハ十二号ノ説ヲ不可トシテ云フ賛成ス

議長ニ号ニ同意ノ者ヲ呼フ起ツ者六名又第十二号ニ

同意ヲ呼ブ五名依テ第九号多敷ニ并下ハ田中恒一郎地構ニ

マデニ決ス

第十三号^{田中恒一郎}ハ北溝ハ涌川口ヨリ街道橋^ニ西側ニ云可シ

第九号^{荒崎河之助}前説ヲ駁シテ曰ク東側ハ堤ニ此ハ新ノ地キ

リ堤防ニ属スルハ該溝筋悉皆堤防ナリ依テ軍隊ニテ可ナリ

議長ハ、御座同意ト有リテ、
第廿号津田雄三郎ハ北溝筋ハ替從來三等宮緒ナリシガ以
来ハ橋限リナルヤ

議長ハ、先ハ位前ノ通りナリト云フ

議長ハ、白ク先ツ堤防箇処定ムル其方決ラ議ナリト云フ

第二号永長伊郎堤防ハ急リ村中害キニ可シ

第五号ハ勤義ヲ起ヒテ宮緒費悉懸村方、
其ハ持田者ヨリ申辦ナリ

第四号平野葛次ハ字妙見崎堤防ハ如キハ急リ村方決ラ議ナリト云フ

第九号森崎勝之助ハ妙見崎堤防ハ急リ村方決ラ議ナリト云フ

第十一号仰水重次郎ハ妙見堤防修繕ハ他村ニモテハ荒川ニヤ村方決ラ議ナリト云フ

第十三号田中慎一郎ハ村中堤防ハ村方決ラ議ナリト云フ

第十四号平野葛次ハ水議ヲ擴張シテ妙見崎堤防ノ白遺宮緒方
決ラ議ナリト云フ

第十五号津田雄三郎ハ白岩不動谷等ノ堤防ハ三條ニテ
三分ノ二ハ村方決ラ議ナリト云フ

第十六号森崎勝之助ハ不動谷白岩若堤防並傍ノ田地ハ急
替池掛リナリハ談池費同ホモ係レハ地主決ラ議ナリト云フ

第十七号ハ議ヲ主張シテ曰リ、
池費決ラ議ナリト云フ

第十八号ハ議ヲ主張シテ曰リ、
堤除林ハ收獲等額ナリト云フ

第十号(元山嘉兵衛)ハ第五号ヲ駁シ曰リ 他ハトモアレシニ
 等報收獲他田ニ異ナレシ
 第十二号(田中恒清)曰 第十号ノ議ハ井畦ノ説アリトルニ足ラ
 ス汝ス堤防除ハ丈量ノ節ニモ皆豫知アリト云フ
 第十号ハ固年シテ飽ヲ其例ナレト云フ
 第三号(山清九衛門)ノ曰リ私思惟ス各員種々討論アレモ要旨
 ハ村中堤防當繕費処分後ハ悉替村中味キニヌキヤ否ヤノ二意
 ナレハ議長早ク決ラト云フ
 議長茲ニ於テ第二号建議ノ如ク悉替村方凌キニ同意者ヲ呼
 起者九名依テ決ス

議長ハ該道ハ市場村元付聯合會ニテ議決スベシト云フ
 第九号(森善三郎)道路當繕費ハ戸数地價ノ折半シテ可ナリ
 第四番(平野葛次)ハ該費ハ脇義費賦課法ニテ可ナリト云フ
 第六番(林伊衛門)ハ第四号ノ賛成ス
 議長第九号議ニ同意者呼ブ起者四名又第四番ノ説脇義費賦
 課法ヲ可トスル者呼ブ起立六名多數ニ付決ス
 津田雄三郎ハ里道及橋梁ハ御積リ之内ル分ハ村方凌キ五人
 以下ノ小坂ハ該地方有田者限り五弁ムベシ
 第四番(平野葛次)ハ第四番ヲ賛成シテ五人以下修當ナリト戸長ハ
 届出白田地主立會ノ上着手スベシト云フ



第七番田中專九郎(勤義)起して曰く其以下ノ小破壞ハ類

曰持主立寄スルハ片長ニ留メ出ルニ可シ

第六号林平官(勤)曰く村路ハ村方表裏村道是ニ属スル橋梁

ハ其路耕能通人ニ修繕ス可シ

第十号(河山嘉兵衛)ハ第六号議可トシ種々其意ヲ述ベ

議長ハ第五号内第四号同意ノ府ニ起立セシム志スルモノ七名則チ

道路及橋梁修繕費此等ハ村方表裏以下ノ小破ハ其下有田者限

之并ハ村方表裏以下ノ小破タレ片長ニ留メ出テ對田者立寄

答ニ夫ス時ニ對シテ

尋テ書記村會議業第四号公立小呂子維持方法ヲ詔ム

第五号津田雄三郎ハ用惠水路中北溝ノ如キ窪ヨリ同論見ル

箇犯ハ其所育田者或ハ地主限リナルヤ

第四号平野葛次ハ北溝ノ決議ヲ取消シ窪ヨリ見積リノ有犯ハ其

有田者限リニス可シ

第五号(乾通助)第四号ヲ駁シテ曰ク道路堤防ノ三村内脇我^{ウラシマ}

支弁ニ用露水路ニ致リ其最寄育田者限リトハ不至当ナリ因テ村

中三等官籍ノ箇犯ハ悉皆脇議費ニ支辨ス可決スベト云フ

第四号ハ主張シテ堤防ノ三村ナリト云フ

第二番(永長伊助)ハ三等官籍ナリ此沼池ハ該地田度限リニ致スル

第十二番(田中慎一郎)ハ沼池ハ其地掛リノミトシ他ハ村方表裏ニ

此間立ルニテ意權ヲ述ベモ審議ノ未第十三番勤義ノ漏リ漏
池ヲ除クノ外如クハ急務村方凌ヒニ決ス

第四番ハ村外漏池モ数々アルニ漏池掛リタルヲ其池係リ有田番限
リタル後々決シ度ト云フ

第五番ハ其崎跡之池ハ後々ハ柳瀬池掛リハ其池田度限リ又白岩池掛リハ
其白岩係有田番ノミトスベシ

他ニ勤義ナキヨリ第四番ノ建議ニ決ス

第四項

第二号永長伊助ハ該村中西林久太郎宅ヨリ不勤谷堤マデノ間
市場村築式道ナリ是ハ宮籍費如何ナルヤ

各議員公立ハ字維持方法ノ事ハ内審義ヲ同キ修シテ然シテ
後ニ本會同キ度ト述ゲ因フ之ヨリ村會同キ修シ

衆負種々整計ノ未昨年ノ費額ニ準據シ外ニ助款一名相
加ハ総金額面三四ノ月五十三圓據テ本村資本利子貸負表利子
引残リ五十圓不足依テ資本相募答ニ決シ修正衆負ニ應
ニ議長幹夏ノ三名ニ当撰ス時七昨日過ルヲ以テ會同散ス

二十一日

欠席二名

不参二名

傍聴人一名

午後一時撃楯開議

書記修正議案第四案ヲ詔公セ

第四條

一公立小學校費總算

一金百〇一五圓

内 七十八圓

職員二名給料

0124

安楽川村文書 I

文書
番号

013

28m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22

拾貳圓	學丁給料
拾五圓	校内諸費計
一金百〇五圓	
内 拾八圓	生徒授業料
十五圓	六百物賣卸代價元
重十圓	百圓之利子
小以六十元圓	賀表元七十石ノ利子
差引金四拾四圓	不足 賦課金
但し有志輩へ寄附金募集し而餘金ハハ教員賦課ス	
衆員総体ヲ可トス依テ第二水會ヲ開ク	

第九号(森崎所之町)ノ白リ學費金寄附ハ花リ各議員自己ノ
 特志ヲ以テ寄附シ帳簿ヲ製シ之レ姓名ヲ記シ調印シ該村中
 有志輩へ最寄議負ヨリ勸誘スルニ如クナレ

各員之ヲ可トシ其建議ニ決ス

第十番(比山嘉兵衛)ハ寄附金ハ元金ヲ出ス

第三番(山ノ清左門)ハ寄附金ハ元金ヲ出カス連月利支ヲモ該村許へ
 集メ其期々ノ白子賣スニ決ス

第八番(岩田市兵衛)ハ第三番議員成レテ曰ク人ニ負當ノ別アルハ
 今年富モ来年ニ至ルハ負者ナレト計リカタシ依テ元金ハ本人預置
 キ毎月利支納ハベシ若シ来年貧者トナレハ元金モ亦改正スベシ

第十号 山嘉兵衛ハ前議主張シテ白ク 茂ハ昔ノ説ヲ人ニ貴賤アリ
レハ貧富アリ政ニ今元金集メシバ来年ニ至リ寄附人ニ貧者多ケレハ
金ヲ減全減スルニ至ル條ヲ輕微ナリ元金ヲ出ス可トス

議長茲ニ於テ決ヲトルニ第十号説ニ起正四名又第三号第八号ニ
同意者七名依テ寄附金額ハ年々改正シ元金ハ當人ニ預ケ置利子
ハ月々世話係ニ出スニ決之

第十号 乾直輔ハ各員寄附スル金高ハ銘々忘ケス金位ヲ記シ
投票ニ入レト云フ

第十一号 第六号之ヲ賛成ス
議長ハ各員ニ十三号ノ建議ノ可否同クニ總テ可トス依テ

各員競テ投票ニ決ス暫時休憩ス

午後五時ニ分會

議長幹事ニ命シ票ヲ集メ開票セシムル如シ

- | | | | |
|------|---------|-------|--------|
| 一金參拾 | 岡田中專兵衛 | 一金三十 | 内津田雄三郎 |
| 一金二十 | 五柳本重次郎 | 一金二十二 | 内山嘉兵衛 |
| 一金拾五 | 岡田平野葛次 | 一金拾五 | 内山善四郎 |
| 一金十 | 丸岡乾直輔 | 一金拾 | 内山伊右衛門 |
| 一金拾 | 岡田市兵衛 | 一金七 | 岡田永長伊助 |
| 一兩一石 | 二斗田中慎一郎 | | |

右之他ハ村中有志者へ寄附ヲ募集シ尚不足スルキハ
 戸数ニ賦スルニ決ス又書記帳簿へ各員寄附金姓名
 ナ記ス依テ義長衆員ニ調印セシム
 議長衆議員ニ對シ曰ク會議ノ定日モ明日ニテ終レハ明
 日ハ午前第八時ヨリ開會シテ残余及ヒ他建議等ヲ
 悉ク決定セハ如何
 衆議員之ヲ認可ス依テ退場セシム

二十三日

不参

欠席

三名

傍聴人

二名

午前第八時折ヲ撃テ會ヲ始ム

書記修正案第五條ヲ朗読ス

修正議案

第五條

第貳款

一村社寺修繕費及祭典費賦課方法

此豫算

社寺修繕費七圓
 祭典費三圓四角五分

第二款

一村總代給及臨時雇入日当村小使給定額

此後

村總代一ヶ年給五円
臨時雇入日当村小使一ヶ年給五円

議長答辯人トナリ第一水會ヲ開キ尋テ第二水會ヲ開ク

第四番 竜敷

第四番(平野葛次)ハ村社寺ハ地價ニ關スルモノデテ改正修繕費ハ戸數割ニシテ可ナリト云フ

第七番(田中仙五郎)ハ社寺修營費ハ戸數人口ニ分テ可ナリ

第二番(永長伊)即ハ人口ニ割ルニ不可トシ第四番ヲ賛成人

議長ハ第四番同意ノ者起立セシム起者八名則戸數割ニ決定セリ

第五番 柳水重次郎

第五番(津田雄三郎)ハ村總代給五円ヲ七円ニ増シ步行給十三円

ヲ六円ニスベシト云フ

第七番(柳水重次郎)ハ步行給半額ニストハ第六番トシ依テ

何レモ原押ニテ可ナリ

第六番(林伊右馬)ハ惣代給雇入日当ハ原押ニテ可ナリ又步行

給ハ後前ノ通りニムベシ

第八番(岩田市兵衛)ハ第六号ト同意スルモ村小使給從前

之通りハ不可ナリ一ヶ年八円ト定ムベシ

議長白ク村總代ト村小使ト同一議スルハ混雜ス故ニ先ツ

總代給臨時雇人日当ノ決ヲトテ各苦ケ原案ヲ可トスル者
ヲ呼フ起立十名則原案ニ決ス

第八号(岩田市共立)ハ步行給白慣ノ通り永表ヲ聚ムル者
年八円ノ給ト定ム可シ

第十一号(柳本重次郎)ハ第八号ヲ影シテ一年八円ノ薄給ニテハ
壯健人ニ務ル者ナシ又老父痼疾人ニテハ自ラ緊要ヲ欲ル
テリ依テ原案ニ可ナリ

第六番ハ脇義費ノ割モ多ケハ步行料 従前ノ如ク永表
ヲ毎戸ニテ聚メシ可ナリト決

義長茲ニ於テ原案ヲ可トスル者ヲ呼フ此ハル者三名又第六

番議ニ同意ル者起立セシムニ各又第六番ノ説ノ如ク従前
ノ終ラ可トスル者ヲ呼ブ起ツ者六名多ク其後前通リニ決ス
議長村總代給及臨時雇人日当賦課如何

第四号(平野葛次)ハ談給料ハ脇義費賦課法ニ集シテ
地價ニ七分ノ數ニ三分課シ可ナリ

第十一号(田中慎一郎)ハ第八号ト同意ヲ表ス

他ニ動議ナキニテ議長第八号ヲ可トスル者ヲ呼フ終起立
禮ニテ諸君離ル

十時十分開會

書記本業第六番第七号ヲ逐条朗読ス

第六條

第二番永長伊助(頁)案ニテ可ナリト云フ
議長原案同意タリ時ニ終起立依テ原案ニ決ス

第七條

衆議員認可ス依テ原案ノ通りニ決ス
書記修正議案第八條ヲ詔ム

修正案

第八條

一村中貸麦保存方法

第四番平野葛次(ノ)曰ク貸麦ハ従前ノ貸付ハ無抵当ナレハ
以來ハ請人或ハ抵当ヲ入セ金額ニ直シ毎年兩度利息

ヲ取立ツ可シ

第二号(永長伊助)曰ク確証ヲトルハ可ナレモ麦秋ヲ金値ニ直ス
ハ其實行ニガタシ如何トナレ本年近比稀ニ高價ナレハ
今年ノ比較ヲ以テ金額ニ直シ請人ヲ入セ調印ビレハルハ
借主ノ苦情容易ナリ

第六号(林伊右衛門)ハ第四番ヲ賛成シテ麦價ハ五ヶ年ノ
平均ヲ以テ金額ヲ定ムルハ九程苦情アルマデト云フ

第三号(山崎九衛門)ハ貸麦ハ前借麦數ノ終備用証書ヲ
テ借主ヨリ差出サス可シ

第十号(柳本重次郎)曰ク貸麦ノ原因ハ貧民救助ノ爲ナレハ

正々寛ミナリトス故ニ更ニ帳簿ヲ製シ果々ノ貸付ノ
記シ本人及ヒ諸人等ニ押印セシメ村中ニ保存スベシ
其他ニ種々討論アリテ審議ノ末遂ニ貸付帳簿ヲ製シ借主
及諸人等ニ調印致サセ村中ニ信スヘキ決ス
時既ニ正午ヲ報ス依テ會ヲ散ス

午後一時ニ十分開議

議長白ク第四号議負ヨリ建議アレハ之ヲ書記ニ
訓読セシムベシ

建議書

一村中ニ有物及古諸帳簿等ニ監守係リ一名ヲ

選ビ該品物ヲ負擔セシムベシ

村會議集
二平野 葛次

議長ハ建議人ヲシテ質問ニ答辯セシム

番外戸長津田作之丞出頭アリテ其席ニ立ス

第八号(岩田市兵五)ハ監守人ノ謝儀等ハ如何

答辯人共謝儀日ヨハ各員審議ノ末決定致シ度ト成テ

質問終テ第二會ヲ開キ

第五号津田雄三郎ハ本村ヲ賛成シテ二名ヲ撰ブ可シ

第二号(永長伊郎)ハ他ニ選ハス議長ニ依頼スベシト陳テ

第八号(岩田市兵五)ハ動義ヲ起シテ村會議諸帳面預リ人アル

ハ惣代人不用ニ属ス依テ監守係リ選舉ハ不可ナリ
第五番ハ村総代人缺ベカラス又監守係リハ村惣代ノ負任
ヲ奪フニ非ス只村中所有物貸付證券及村総代手許
不用ノ古帳面ヲ監守スル人ナレハニ召ケ選ビテ可ナリ
第十二番ハ第八号ニ同意ヲ表シテ村総代アルハ他ニ撰ブ
ニ足ラスト云フ
第八番ハ主張シテ若シ監守係ヲ撰ビ諸帳簿ヲ取締
スルハ村惣代ハ威權ニテキヨリ直チニ辞スベシト言フ
其他論議アリト雖モ要スルニ選不選ニ照ニ過ギズ
議長ハ原案採同意ノ者ヲ起立セシム應

ハル者十名因テ選フニ決ス

議長ノ曰監守係リ筆據添旦ツ日当謝儀ヲ添テ議可シ
第三番ハ村惣代ノ他ニ雇入日当アルハ其日当ヲ与フベシ
第五番ハ監守係村総代ト共立會シテ幣礼日ハ日可
ヲ与ヘ可シ

第六番ハ無日当ニスベシト云フ

第七番第八番第十番之ヲ賛成ス

審議ノ末遂ニ無謝義無日当ニ決ス各ヲ撰フニ決ス
議長ノ曰リニ名撰フノ方必如何

第十三号ハ投票ニシテ多数ニ決ムベシ

第七号ハ議員中ニテ抽籤ニスベシ

衆員投票ヲ可トス依テ議長各議員投票セシムルニ

議長ハ山善四郎副議長平野昌次ノ両名ニ當選

セリ議長ハ意見アル次第ヲ告ケ番外ニ代理ス

番外ハ長津田作之丞議長ニ交リ其席ニ着人

第五番(山善四郎)ハ自ラハ多票ナル其任ニ堪ヘス致シ

一ニ改票アリタシ

第四号(平野昌次)ハ山生多用ノ身分且リ其意ニタエ

カタシ依テ改票ニ譲リ度ト陳ス

第五号ハ多票ニ付決シタルヲ辞スハ各員皆之ヲ辭ス依

テ改票スル不可ナリ

第七番ハ第五号ト同意ヲ述ブ

議長曰先投票取消シ可否ノ二点ナレバ改票ヲ不可

トスル者起立セヨ立ッ者イ各員依テ決ス

議長第五号第五号ニ向ヒ各員應テ依テナレバ御苦勞

ナガラ承諾アリタシト陳ス兩議員承諾ス依テ決ス

第九番(矢崎弥之助)建言致シ度旨ヲ議長ニ告グ

議長許可シテ建言口セシム

第九番ノ曰ク村中ニテ諸真行會一切豫メテ禁ム

道キ若シ之ヲ犯ス者アルハ村費償ヒトシテ談真ハ

行集金ノ内ヨリ分カ徴收セシムベシト決定
致シ置キ度ナリト建言カス

議長ハ各員ニ第拾号建議ノ旨趣ヲ告ゲ審
議スベシト策ス

第十三番 建言ト同意ヲ表ス

議長他ニ動議ナキヨリ建議ト同意ノ者ヲ呼ブ
然立立則チ建言ニ通リニ決ス

時己ニ五時三十分議付全ク終ルヲ以テ暫時休憩ス
各員議場ニ整列ス議長ハ席ニ登リテ祝詞ヲ朗詠ス
我謹再持白 明治皇帝之朝ニ至リ文日ニ加ス

開ケ 皇徳之風ニ民競慕ス所之如シ於予茲

庶民ニ至マテ漸ク文明之域ニ入トス然リ而自
由之權ヲ免セシ今明治十三年ヨリ町村會議設ク令

ラセク々桑ナク奉頂シ依テ我村落ハ八月十七日ヲ
以テ開設ス吾輩議長ノ任ニ的撰セラル素ヨリ天稟

魯鈍ナリト雖此美業ニ遇ヒ惊喜踊躍ニ堪ヌ不
知愧赧議長之席ヲ瀆ス雖然各君々々之苦

ヲ厭ハス救日膠河ノ旁ヲ尽シ辯論ス其
故ニ忽チ今此成功ヲ祝ス事耳

明治十三年八月廿三日

片山善四郎

尋テ議長然代トシテ津田雄三郎進テ之ヲ受ツ答詞
ヲ陳ブ其詞ニ曰ク

明治十二年八月廿三日實ニ吾村會開場ノ日也此ヲ
以議長足下親シク開場ノ式ヲ行ハレ且ツ祝スルニ
金玉ノ文字ヲ以テセラル某等豚犬何ソ其
過答ニ當ラシヤ

然リ而シテ衆議莫ヤ中ノ七八ハ頭ニ白霜ヲ戴ク
ノ齡ナルモ談會議ノ如キニ至タラハ皆是三尺ノ
童子如シ如何トナレハ生来未嘗冠ノ夏ナレハナリ
此ヲ以其議スルルモ亦自カウ不塾何ソ村中ノ

人民ヲシテ觀天喜地ソノ指ヲ失フ如キノ好結
果ヲ醸成スルノ時ハ議長足下ノ過答ヲ受
クルハ果タ其日ニアル乎聊サカ鄙言ヲ書シ
テ以答辭トナス

議員 津田雄三郎

議長ハ之ヲ受納シテ各議員ノ勞ヲ謝シ又將
來ニ望ムルノ旨ヲ演古シ尋テ開場ス時六時四十
分ナリキ

0136

安楽川村文書 I

文書
番号

013

28m 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21



0137

安楽川村文書 I

文書
番号

013

28m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20